第2回　10月14日の講義内容

- §1. 社会調査とは何か
  - 社会調査とは
  - 調査倫理
  - 社会調査の軸
  - 統計的研究と事例研究
  - 量的調査と質的調査
  - 記述的調査と説明的調査
  - まとめ

1 10/14/09

社会調査とは何か

- 社会調査とは
  関心のある社会現象を観察して、第一次資料としてのデータを収集する。そして、それに基づいた解釈を行うこと。
- 社会調査の目的
  (経験的) データをもちいて意味世界としての社会的世界を探求し、新しい知見を提示すること。
  - Note:第一次資料とは

2 10/14/09

学問・科学としての社会調査

- 要請
  - データの質が高い
  - 結果の妥当性、説得性、信頼性

⇕

- 満たすべき条件
  - 客観的な基準に立脚した方法の採用
  - 追調査可能

3 10/14/09

調査倫理

- 学問上の倫理
  - 基本的倫理：データの捏造、剽窃、無断引用の禁止
  - 科学的客観性の保持
  - 知的誠実性：不都合な結果でも隠さない
  - 学術研究の特権性の否定
- 調査特有の倫理
  1. インフォームド・コンセント：例外・秘匿調査
  2. ハラスメントの回避
  3. コンフィデンシャリティ (秘密保持)

4 10/14/09

社会調査の軸

- 4つの軸

①調査対象：	群全体	⇔	一部
②関　心：	対象の平均像	⇔	個別像
③実現方法：	量的	⇔	質的
④解釈方法：	分析的	⇔	記述的

5 10/14/09

社会調査の主な区分

- 対象による区分
  - 統計的研究：複数の個体からなる群全体を対象
  - 事例研究：　一つの個体を対象
- 得られるデータのタイプによる区分
  - 量的調査 quantitative research：
    数量的データを扱う
  - 質的調査 qualitative research：
    非数量的データを扱う

6 10/14/09

統計的研究の特徴

- 統計的分析手法を用いる
- 犯しやすい誤解
  - 経験的一般化（観察言明を普遍言明とする）は「法則定立」ではなく「仮説設定」にすぎない
  - 経験の多さは必ずしも「普遍性」を意味しない
  - 調査項目の選択段階などで「主観性」が入り込む余地が残っている
  - 統計手法の採用＝「科学的」、という思い込みを生み易い

事例研究の特徴

- 分析上の限定性がない
  - さまざまな分析技法を用いることが可能
- 犯しやすい誤解
  - 対象への現象的な「近さ」＝対象の「解明」、という錯覚を生じ易い
  - 事例の「代表性」問題：たとえ「代表性」が欠如していたとしても、理論的問題に対する答えが導出できれば研究としては有意義

量的調査

- 調査票（標本）調査　（例）アンケート、世論調査
  - サンプリング＋推測統計　→　群全体の平均像を推測可能
  - 分析的調査となるためには、何らかの枠組（理論・モデル）が必要
- 事例研究の中における量的データの調査・分析
- 現象を量的データに変換する段階で情報を損失していることに注意

量的調査の利点と欠点

- 利点
  1. 定型化しやすいので大標本を扱える
  2. 数値化しやすいので処理が容易
  3. 統計的推論が可能
  4. 追試が可能
- 欠点
  1. 画一化するため、細かく・微妙な内容にはなじまない
  2. 相互に関係する複雑な仕組を捉えるのが苦手
  3. 全体像がつかみにくい
  4. ある時点における静的な関係のみしか扱えない

質的調査

- 限定的標本に対する非定形的、複合的内容をもつ調査。
  - 日常的な社会現象の非加工の記述（「日常性」）
- 如何にして被対象者の主観的な情報を引き出し、その社会的意味を調査者が整理し、普遍化するかがポイント。
  - 主観的世界を直接表現した素材（「解釈自己提示性」）
  - 調査自身は研究の素材であって目的ではない
  - 素材の力に頼り過ぎないこと

質的調査でよく用いられる技法

- インタビュー調査 interviewing
  - 半構造化ないし非構造化in-depthインタビュー
  - ライフ・ヒストリー研究のナラティブ・インタビュー
- 参与観察 participant observation

どちらの技法も調査後、時間をおかずに記述・整理すること

- ドキュメント調査

質的調査の利点と欠点

- 利点
  1. 総合的に理解可能
  2. 深層まで追跡可能
  3. 動態を把握可能
- 欠点
  1. 一般化が困難
  2. 検証困難か不能

13 10/14/09

記述的調査と説明的調査

- 記述的調査
  - 社会現象の記述が目的
  - 記述から抽象概念を推論・作成することもある
- 説明的調査
  - 複数の社会現象の記述から、複数の社会現象の関係の因果関係を探ることが目的
  - 抽象概念間の因果関係を探ることが目的でもある

14 10/14/09

まとめ

- どのような調査手法が妥当・適切かは、調査目的によって異なる。

↓

- 問題意識や調査目的・目標を明確にしておくこと!!
  - Note:複数の調査手法を組み合わせることで、より明確に全体像を浮かび上がらせるよう、試みている研究者もいる(P.Bourdieu)

15 10/14/09

考えてみよう

- バレンタインデーにおける「OLの義理チョコ」現象とは何か
  - 目的は
  - 調査手法は

16 10/14/09

考えてみよう (続)

- 「OLの職場内での地位・役割」に関する調査
  - 目的：実質的な役割・権力構造を明らかにする
    - 「お茶汲み」か「お局様」か。その実態は?
  - どのような調査手法をとるか
- 参考文献
  - 小笠原祐子(1998)『OLたちのレジスタンス』中公新書
  - 脇坂・富田編(2002)『大卒女性の働き方』日本研究労働機構

17 10/14/09